

27年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 8月1日～ 27年8月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+「やや増加」の評価を行った回答の割合-「減少」の評価を行った回答の割合}×2-「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 16.7	27.8	38.9
	ヒノキ	△ 35.7	14.3	28.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 11.1	16.7	27.8
	ヒノキ	△ 7.1	7.1	7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 44.4	△ 5.6	0.0
	ヒノキ	△ 58.3	△ 16.7	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ及びヒノキ原木の入荷は8月の減少が、9月、10月は増加。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは8月の減少が、9月、10月は横ばい。

・スギ及びヒノキ原木の消費は8月の減少が、9月、10月は増加。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは8月の横ばいが、9月減少、10月は横ばい。

・スギ及びヒノキ原木の在庫は8月、9月の減少が、10月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは3ヵ月連続して減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
スギ	38.9	16.7	22.2
ヒノキ	50.0	14.3	35.7
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は強含み。

・カラマツ及びトドマツは横ばい。

モニターからのコメント

' (原木荷動き)

・前月と入荷に大きな変化はないが、木質バイオマス向け集材の関係から、パルプ材の価格に変化が出て来た。原木消費は7月に入りパレット・梱包も需要減に加え、値下がりしたスギ材の参入や過大な在庫に悩む外材製品の投売りにより市場に食い込んできていることで受注量が減っている（北海道）。

・天候も悪くなく、春先からの原木入荷開始。新工場の稼働で消費量増加。在庫は溜まらない（北海道）。

・市場への出材量減少、9月以降増加の見込み。スギ原木の消費増加予定。在庫総量減少、9月以降在庫増加の見込み（近畿）。

・夏の季節要因で今月は入荷量減る。8月で在庫が落ち着くので、9月から少し消費増やす予定。季節要因で在庫は少し減らす（中国）。

・8月に入っても丸太の出材が極めて少ない。丸太在庫が少ないため、消費動向は出荷動向に影響される。丸太在庫は極少状態（中国）。

・梅雨は明けたが、今度は暑さによる影響で素材業者の作業時間が短くなった所がある。本格的に材が出だすのは盆明けから9月初旬になる。注文状況にもよるが、秋需に向けて生産も増えて行く見通し（九州）。

・入荷は9月、10月に記念市が多数のためやや増加。生産は変わらず（九州）。

・梅雨も明け、順調に出材増えて来た、材価高騰の一つの要因では。消費動向はバイオマスを含む大手メーカーの原木、製品の在庫の状況によるのでは（九州）。

(原木価格)

- ・公売は、各月±1,000円/m³位の価格差あり。民材は横ばい（北海道）。
- ・市場への原木出材量が少なく、原木在庫の少ないメーカーの仕入が少し強くなっているが、相場が大きく上昇するほどではない（近畿）。
- ・8月は天候にもよるが、ヒノキ価格は1,000～1,500円/m³上がると予想。9月からは上げた分だけ下がり、スライドと予想（中国）。
- ・出材減により、価格上昇傾向（中国）。
- ・現状は、丸太不足による原木高の状況。今後は、入荷量と注文状況次第（九州）。
- ・出材減少のため原木価格やや上昇（九州）。
- ・未だ各メーカーの素材不足感は続いているが、記念市等素材が出て来るタイミングに合わせて相場が見えてくるのでは（九州）。

27年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
生産動向	スギ	0.0	18.8	37.5
	ヒノキ	△ 14.3	7.1	21.4
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 6.3	18.8	37.5
	ヒノキ	7.1	14.3	28.6
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 18.8	△ 12.5	△ 12.5
	ヒノキ	△ 35.7	△ 21.4	△ 21.4
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ製材品の生産は8月の横ばいが、9月、10月は増加。ヒノキは8月の減少が、9月、10月は増加。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは8月の減少が、9月、10月は横ばい。

・スギ製材品の出荷は8月の減少が、9月、10月は増加。ヒノキは3ヵ月連続して増加。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは8月の減少が、9月、10月は横ばい。

・製材品の在庫は、全品目で3ヵ月連続して減少。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	22.2	33.3	38.9
	柱角 KD12×3	5.6	22.2	27.8
	通し柱 12×6	14.3	14.3	21.4
	桁角	7.1	7.1	14.3
	母屋角	0.0	14.3	14.3
	タルキ	0.0	14.3	21.4
	間柱	18.8	31.3	37.5
	ヌキ	△ 6.3	0.0	6.3
	平割	6.3	6.3	12.5
ラミナ	△ 16.7	0.0	0.0	
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	21.4	35.7
	柱角 KD12×3	△ 7.1	14.3	28.6
	土台角 10.5×4	7.1	21.4	35.7
	土台角 12×4	0.0	14.3	28.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	20.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	△ 50.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は、総じて強含み。

・ヒノキ製材品の出荷価格は、ラミナの3ヵ月連続しての横ばいを除いて、それ以外は8月の保含が、9月、10月は総じて強含み。

・カラマツ梱包仕組み板は3ヵ月連続して横ばい。カラマツラミナは8月の弱含みが、9月、10月は横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・お盆休みで生産量減少、9月以降は需要増加を見込む。在庫増にならないよう生産品目を調整（北海道）。
- ・注文に応じ、生産量は増加にて対応。9月以降、出荷増の見込み。在庫は減少しているが、現在在庫を維持し、無理に在庫を増やさない（近畿）。
- ・ヒノキは、生産、消費は大きな変動ない。在庫は8月減らして、9月からはスライドさせる（中国）。
- ・今後、受注が増えてくる見込み。丸太在庫が少ないので、生産は十分出来ない。よって在庫は減る（中国）。
- ・生産変わらず。販売はやや増加（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギ、下げる要素なし（北海道）。
- ・スギ・ヒノキは需要は増えているが、大きな盛り上がりは実感できない。暫くは底値維持の状況が続く見込み（近畿）。
- ・スギ原木価格上昇にも関わらず、川下は製品価格を抑えている。ヒノキの丸太、製品共在庫少ないが、川下は製品価格を抑えている。国内全体の製品在庫量が少なくなれば、単価反発すると思われる（中国）。
- ・価格下落が分を過ぎて止まる。価格上昇を期待（九州）。

27年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ及びニュージーランド丸太の仕入は、3ヵ月連続して横ばいで推移。

・米マツの消費は、8月の減少が、9月は横ばい、10月は増加。ニュージーランド丸太は8月の横ばいが9月、10月は増加。

・米マツ丸太の在庫は、8月、9月の増加が10月は減少。ニュージーランド丸太は8月の横ばいが9月、10月は減少。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
米マツ丸太	50.0	50.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツは強含みで推移。

・ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太は、7月後半より多少需要が増加したように思える。消費は例年の様に年末に向けて、更に少しずつ増えてくると期待する（中国）。

(原木価格動向)

・NZラジアータ丸太は横ばいで推移（中国）。

27年8月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
生産			
米マツ製材品	△ 50.0	0.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	50.0	50.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は8月の減少が、9月は横ばい、10月は増加。NZラジアータは8月、9月の横ばいが、10月は増加。

・米マツ製材品の出荷は8月の減少が、9月、10月は増加。NZラジアータは8月、9月の横ばいが、10月は増加。

・米マツ製材品の在庫は8月、9月の増加が、10月は減少。NZラジアータは8月、9月の横ばいが、10月は減少。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
米マツ平角	0.0	0.0	50.0
米マツ正角	0.0	0.0	50.0
米マツ小割	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツの平角及び正角の出荷価格は、8月、9月の保合が10月は強含み、小割は8月の横ばいが9月、10月は強含み。

・NZラジアータ製材品の出荷価格は保合。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータは、7月後半より多少需要が増加したように思える。消費は例年の様に年末に向けて更に少しずつ増えてくると期待する(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータは横ばいで推移。(中国)。